

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

21 世紀の国際社会をリードする新しい時代のリーダーを育てる学校めざす。

- 1 知・徳・体の調和のとれた人間を育成するとともに、社会に貢献する志を持った、グローバルなリーダーを育てる。
- 2 夢や志を実現できる確かな学力を身につけさせ、生徒の進路希望の実現を図る。
- 3 豊かな心や三丘スピリット（文武両道、自主自立、切磋琢磨）を育む。また、要配慮生徒への支援や人権尊重の精神を涵養し、安全・安心な学校をつくる。
- 4 教職員の資質の向上と機動的な学校運営体制を確立させ、府立高校の評価・信頼向上のリーダー校をめざす。

2 中期的目標

【1】 生徒の夢や志を育み、国際感覚を育成する

(1) グローバルリーダーズハイスクール (GLHS) にふさわしい「志学」や「キャリア教育」を推進する

ア 進路意識の醸成を図る

「総合的学習の時間」・LHR 等で社会の第一線で活躍する人材を有する同窓会等と連携し、卒業生を活用し大学や社会での最先端の学問や研究、仕事の最前線に触れさせる。

- ※ 「三丘セミナー」等の充実を図り、毎年 20 講座以上提供する。
- ※ 「CS 探究・CS 研究」の充実による志の形成サポートや大学のオープンキャンパスなどを活用し、学部選びや将来の志望育成を図る。
- ※ 「京大見学会」「東京方面キャンパスツアー」を毎年実施し、研究室訪問などを行うことにより、高い目標を醸成し、その満足度を 90%以上とする。
- ※ 本校にふさわしい 3 年間を見通した進路・キャリア教育のプログラムを完成させる。

イ 高い志を育成する

三丘セミナー、大学訪問、医療系職場体験などの具体的なプログラムを提供するとともに、難関大学の見学会や体験事業を通じて社会に貢献できる高い志や目標意識を育む。

- ※ リーダーとして高い志を育成するための進路講演会・懇談会を充実させ、生徒の満足度を 90%以上とする。
- ※ 京大・阪大・神大などの難関大学の研究室訪問や見学会を年 5 回以上実施するとともに、その内容の改善・充実を図り、満足度 90 パーセント以上を維持する。
- ※ 医療現場と連携して医師・看護師などの医療系職場体験の充実によって、医療系進学者の増加を図る。(H24 年度 24 人、H25 年度 32 人、H27 年度 29 人)

(2) 国際感覚とグローバルリーダーの育成を図る

ア グローバルリーダーの育成

スーパーグローバルハイスクール (SGH)、グローバルリーダーズハイスクール (GLHS) にふさわしい確かな学力を育てるため、「Creative Solutions I II III」・「CS 探究」を充実させ、確かな英語の学力をつけるとともに、グローバルリーダーをめざした目的意識を醸成する。SGH カリキュラムによる「メルルハースト大学」の派遣教員の授業、「国際機関の現状と使命」や「世界の最新の知見」を学ぶことにより、生徒の学習意識を高め、グローバルリーダーとしての素養とリーダーシップを学ぶ。

また、スーパーイングリッシュティーチャ (SET) の配置に伴い、「TOEFL 授業」の開発・構築をはかる。

- ※ 「SET を活用した英語授業」の構築と内容の充実を図る。授業満足度 70 パーセント以上をめざす。
- ※ 英語教育の充実を図り、TOEFL ITP、TOEFL iBT の受験者 300 名以上をめざす。海外進学 1 名以上をめざす。
- ※ 学校教育自己診断 (生徒) 「コミュニケーションに必要な英語を学ぶ機会がある」肯定的評価 70%以上をめざす。(H27 68.2%)

イ 国際感覚の育成を図る

オーストラリア・スタディーツアー、アメリカ・スタディーツアー (ポートランド・NASA) やフィリピン・スタディーツアー、海外への修学旅行 (H28 年以降 3 年間は台湾)、スポーツ海外交流をしっかりと企画のもと充実した内容で持続的に実施する。

- ※ すべての企画で満足度 90%以上をめざす。
- ※ 海外よりの交流生徒・短期留学生の受け入れ 20 名以上をめざす。また、中国・韓国との交流にも努める。
- ※ 学校教育自己診断 (生徒・保護者) 「国際交流に関する取り組みが充実している」の肯定的評価 80%以上をめざす。(H27 生徒 83.6% 保護者 85.8%)

【2】 確かな学力の向上と進路希望の実現を図る

(3) 質の高い授業による確かな学力向上

ア 質の高い授業の提供

SGH・GLHS・SET 配置校としてふさわしい確かな学力を育てるため、関連科目の充実や文理学科・普通科に適した教科・科目の教材開発、アクティブラーニングや電子黒板を用いた双方向の授業方法などの研究を進める。

- ※ SGH・GLHS・SET 配置校として毎年 4 回以上の授業公開を行うとともに、保護者への授業公開も 3 回以上行う。
- ※ 1・2 年生で 1 日 2 時間以上の自学自習 (学校外での学習時間) をめざし、そのための指導を充実する。
- ※ 授業アンケートや研究授業、校内の相互授業見学などを活用して授業力向上を図り、質の高い授業により生徒の授業評価における授業満足度が 80%以上を維持する。(H27 年度 87%) また、学校教育自己診断における保護者の授業満足度 60%をめざす。(保護者 H27 年度は 56.7%)

イ 学力向上の取組み

教科会議を充実させ、教科としての教科指導力の向上をはかる。また隔週土曜日 4 限授業の導入に伴い、3 年生における新たな「三丘スタディーハード」の構築を図る。

1 年生及び 2 年生で勉強合宿を実施して、学力向上と学習意欲の向上を図る。

- ※ 「三丘スタディーハード」の生徒の満足度 70%以上をめざす。
- ※ 勉強合宿への参加生徒の満足度 90%以上を維持するとともに、つねにプログラムの工夫・改善を行う。
- ※ 「CS 探究 I II」(課題研究) や発表大会を充実させ、生徒の満足度 80%以上をめざす。
- ※ 基礎的、基本的な学力を高めるために読書量、読書時間の確保を図る。

(4) 進路希望の実現

難関国公立大学等 (東大、京大、阪大、神大、市大、医学部医学科) への進学者の増加を図る。(H27 年度 121 人)

- ※ 現役の難関国公立大学進学者数を毎年増加させる。(H27 年度 75 人)
- ※ 学校教育自己診断において、本校の進学指導に対する保護者の満足度 80%以上をめざす。(H27 年度 80.4%)
- ※ 1、2 年生の成績不振者には計画的な「成績不振者講習」を行い、学力の回復と意欲向上を図る一方、発展的専門的な学習を行い、学力を養成する。
- ※ 進路講演会、勉強合宿などを利用して卒業生チューターとの学習・進路相談を充実させ、生徒の進路意識の醸成を図る。
- ※ 卒業生チューターとの懇談を年間 5 回程度実施する。
生徒自らが適切な進路選択ができるとともに、難関大学への志望力を高めるために進路指導体制の強化を促進する。
- ※ 進路ホームルームの充実と 3 年間を見通したプログラムの進化に努める。

【3】 基本的な生活習慣の確立と自主自立・人権尊重の精神の涵養

(5) 生活習慣の確立と三丘スピリット育成

規範ある集団生活を確立し、遅刻指導の徹底と授業集中力を高める。

- ※ 1 日 1 クラス当たりの遅刻人数を 0.5 人未満の維持をめざす。
- ※ 部活動や学校行事を通じて「三丘スピリット」を育み、「集中と切替え」ができる生活態度を育てる。
- ※ 各種の行事や部活動を通じて豊かな人間性とリーダーに必要な資質を養う。また顕著な成績をおさめた生徒は積極的に顕彰する。
- ※ 1、2 年生の部活動加入率 95%以上の維持をめざす。
- ※ 悩みや不安を抱えた生徒に対応するため教育相談やカウンセリングの機能を高める。

(6) 人権尊重の教育推進

情報リテラシーの育成などの今日的課題をふまえて、リーダーにふさわしい豊かな人間性や資質を涵養するため、日常の教科教育のみならず、あらゆる場面で教職員が、人権教育に協力して取り組んでいく。

- ※ 毎年、学年ごとに1回以上の人権講演会および人権HRを行い、人権意識を涵養する。
- ※ 学校教育自己診断（生徒）の「人権・環境・福祉などの今日的課題について学習する機会がある」に対する肯定的意見50%以上をめざす。（H27年度52%）
そのため、人権教育推進委員会と学年、分掌が連携して、恒常的な情報交換を行う。

【4】 機動的な学校の運営体制の確立と教職員の資質向上**(7) 機動的な学校運営**

機動的な学校運営のため、学校経営計画の学校の目標や取り組みを共有し、実行し、常に教職員が課題や改善点を意識し、次年度につなげる。

- ※ 教職員個々の評価・育成システムでは学校経営計画の項目に関連した目標を設定し、取り組む。また、年度末の自己評価で明らかになった課題や改善点は次年度の目標に反映させる。
- ※ 組織的・機動的な学校運営ができるよう、学校組織や業務の見直しに不断の努力を行う。
- ※ ICTが活用できる環境作りと機動的な情報伝達と共有を図り、全員がICTを使って業務の省力化を図る。
- ※ ICT統合及び校務処理システムの円滑な実施をめざす。

(8) 安全・安心で開かれた学校

安全で安心できる学校をつくるため、緊急事態発生時の対応や教職員の研修など危機管理体制を確立する。

- ※ 各学期1回以上の研修を実施する。
生徒相談室の機能の充実を図るとともに、特に課題を抱えた生徒について、学年団での情報交換や連携指導を深める。
- ※ 各学期1回以上のケース会議の開催と、随時の学年団での情報交換会を開催する。
- ※ 開かれた学校として、保護者や地域との連携を図るとともに、教育活動や学校運営についてWebページを通じ公表していく。
- ※ Webページは随時更新し、行事等は10日以内の情報提供をめざす。
- ※ 学校教育自己診断（保護者）の、「学校は、保護者から意見をきく機会を多く持っている」に対する否定的意見が15%以下をめざす。（H27年度 否定的意見19.4%）
そのため、保護者集会（学年連絡会）を各学年で実施し、内容を充実させる。
- ※ 文化祭や登録文化財「三丘会館」、芸術祭、各種講演会などを広く府民に積極的に公開する。
- ※ 地域住民、府民など公開する行事を年間3日以上設定する。

(9) 教職員の資質向上

新着任教員対象が、新しい職場への早期適応と研修の充実による教職員の資質向上を図る。

- ※ 若手教員の勉強会である「三究会」を中心に各学期1回以上の研修を実施する。
授業力向上をめざし、校内研究授業を学期ごとに開催するとともに、教育産業等が主催する研修や他校の研修の受講を支援する。
- ※ 教育産業や他校の研修に年間50人以上の参加を促進する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成28年11月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【I】 生徒・保護者アンケートで肯定的な意見が90%を超えるもの [生徒] ① 学校生活は楽しく入学して良かった。(91.2%→92.3%) ② 文化祭・体育祭や部活動等において生徒は自主的に活動。(95.1%→94.4%) [保護者] ① お子様にとって学校生活は楽しく入学させてよかった。(95.0%→95.3%) ② 文化祭・体育祭や部活動等において生徒の自主性が発揮。(94.2%→95.8%)</p> <p>【II】 生徒・保護者アンケートの経年変化から (1) 進路指導に関する事項 [生徒] ⑤ 必要な進路情報の提供など、適切な進路指導を行っている。(85.8%→85.4%) (2) 授業に関する事項 [生徒] ⑦ 満足できる授業が多い。(70.2%→70.6%) [保護者] ⑧ 満足できる授業が多いと聞いている。(56.7%→55.0%) 【分析】 7割以上と肯定的な意見が多い一方、生徒と保護者の差が気になる。教員の入れ替わりもめまぐるしく、今後も教科内で授業参観・研究授業を実施するなど互いの授業の質を高め、三丘生が期待する授業の質を保証していく。 (3) 施設・設備、校内美化に関する事項 [生徒] ⑩ 学校の施設設備は学習環境として適切である。(82.9%→81.7%) [保護者] ⑩ 学校の施設設備は学習環境として適切である。(77.2%→75.5%) 【分析】 生徒・保護者ともに肯定的な意見が多い一方で、老朽化は進み、各所で点検・整備が必要となってきた。トイレの洋式化や清掃道具、掃除機の導入など時代に即応した整備が必要になってきている。</p> <p>【III】 土曜日授業の実施に関する事項 [生徒] ⑨ 土曜授業により学習効果が高まっていると思う(23.3%→30.0%) [保護者] 23 土曜授業により学習効果が高まっていると思う。(54.1%→77.4%) 【分析】 導入2年目となり定着してきているが、十分とは言えない。生徒と保護者の間で肯定意見の割合に47%ポイントの差があることにも留意すべきである。より効果的な取り組みが求められる。</p> <p>【IV】 教職員アンケートの経年変化から ① 学校では、教育計画作成にあたって教職員で話し合う機会が多い(41.2→49.0%) ② 学校では教育活動全般に渡る評価を行い、次年度の計画に生かしている。(54.9%→64.7%) 【分析】 制度や学校運営の方式が急激に変更した事の反動であると考えられる。今後とも教員間の情報交換の場を増やしていく必要がある。</p>	<p>第1回 7月4日 ○今後SSIとSGHの2本立てになるなら、学校経営計画における位置づけも必要。 ○SGHが3年目の中間評価の年を迎え、今までの成果の波及効果、SSIとの相乗効果も期待したい。 ○進路指導において現役生が楽に決めたいというのは心情的に理解できるが、それでは三国丘高校のめざすキャリア教育が活かされない。1・2年生で高い志を育み、3年生で志望を下げないような工夫がほしい。生徒が後悔しないような進路指導してほしい。 ○海外研修で、対象生徒数を増やせるようなアジア近隣諸国や国内等選択肢を考えてほしい。 ○アクティブラーニングを進めるうえでもタブレットなどの利用も考えられる。情報教育も重視して行ってほしい。</p> <p>第2回 10月29日 ○三丘セミナーや卒業生による進路講演会、キャリアガイダンスなど様々な年代の卒業生による話を聞く機会が多いのは生徒にとっても良い刺激になっていると思われる。 ○今後もAO入試や特色入試などを受ける生徒が増えるかと考えられるが、より困難なところに挑戦する意識を持って引き続き指導をお願いしたい。 ○企業は大学に突飛もない発想を期待している。その点からSGH・SSI・CSなどで大学と共同で研究を行うのは良い体験になり、是非三国からも研究者を輩出願いたい ○生物の動物実験においては「動物倫理規定」も確認願いたい</p> <p>第3回 2月18日 ○SGH・SSIの発表会に参加したが、生徒達の発表は大変明るく正々堂々とした発表で、質問にも的確に答えていた。今後とも事業の継続してほしい。 ○先生がよく頑張っている。外部のコンテストにも積極的に出ているのは、生徒にとって大変良い事である。自覚や責任が生まれる。 ○遅刻者数が減っているのは、色々な教員の努力の成果だと思う。 ○スマホの使い方について、休み時間にしている姿が気になった。使い方について今後検討をできないか。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価（3月31日）
<p>1 生徒の夢や志を育み、国際感覚を育成する取組みの推進</p>	<p>(1) グローバルリーダーズハイスクールにふさわしい「志学」や「キャリア教育」を推進 ア 進路意識の醸成を図る イ 高い志を育成する (2) 英語によるコミュニケーション能力の育成を図る ア グローバルリーダーの育成 イ 国際感覚の育成を図る</p>	<p>① 「三丘セミナー」等の充実を図る。 ② 探究的学習「CS探究・CS研究」の充実を図る。 ③ 科学の最前線にふれる機会を提供し、科学教育の充実を図り、理系進学者の増加を図るために、また高い進路意識を醸成するために「東京方面キャンパスツアー」を実施する。 ④ 本校にふさわしい3年間を見通した進路・キャリア教育のプログラムを完成させる。 ⑤ リーダーとしての高い志を育成するために進路講演会・懇談会などの取組みを充実させる。 ⑥ 京大・阪大・神大などの難関大学の研究室訪問や見学会を実施する。 ⑦ 医師・看護師などの医療系職場体験を実施し、医療系進学者の増加を図る。 ⑧ 「メルルハースト大学」の派遣教員の授業を学ぶことにより、生徒の学習意識を高め、グローバルリーダーとしての素養とリーダーシップを学ぶ。 ⑨ SETを活用した英語授業の構築と内容の充実を図る。 ⑩ 英語教育の充実を図るとともに TOEFL ITP、TOEFL junior の受験者の増加をめざす。 ⑪ オーストラリア・スタディーツアー、アメリカ・スタディーツアー、フィリピン・スタディーツアー、海外修学旅行、スポーツ海外交流を実施しグローバルリーダーとしての意識の向上を図る。 ⑫ 海外よりの交流生徒・短期留学生の受け入れを積極的に行う。</p>	<p>①20 講座以上提供する参加生徒の満足度 85%以上 ② 課題研究選択生徒の満足度 85%以上 ③ キャンパスツアー参加生徒の満足度 85%以上 (H27 年度 100%) ④ 3 年計画の進路プログラムの充実 ⑤ 実施回数年 8 回以上 (H27 年度 8 回) ⑥ 実施回数年 8 回以上 ・学校教育自己診断（生徒）「適切な進路指導」肯定的評価 85%以上 (H27 年度 85.8%) ⑦ 参加生徒の満足度 85%以上 ・医療系進学者の 5%増加 (H27 年度 29 人) ⑧ 生徒の授業満足度 90%以上 ・海外進学 1 名以上をめざす。(H27 年度 1 名) ⑨ 生徒の授業満足度 80%以上をめざす ⑩ TOEFL ITP + TOEFLiBT の受験者数 400 名以上をめざす (H27 年度 479 名) ・学校教育自己診断「コミュニケーション英語を学ぶ機会」肯定的評価 70%以上をめざす (H27 年度 68.2%) ⑪ スタディーツアー参加生徒の満足度 90%を維持 (H27 年度 90%) ⑫ 海外からの受け入れ 70 名以上をめざす (H27 年度 80 名) ・学校教育自己診断（生徒・保護者）「国際交流に関する取組みが充実している」の肯定的評価 80%を維持。(H27 生徒 83.6% 保護者 85.8%)</p>	<p>①24 講座実施（三丘セミナー11 回、東大訪問 1 回、京大 4 回、阪大訪問 5 回、市大訪問 1 回、リーダーズセミナー 2 回）。参加生徒の満足度 90%同窓生等のご協力を受けて生徒の夢を育む重要な取組。充実させる。(○) ② S S I ・ S G H ・ C S 探究とも充実。1, 2 年生文理学科全員課題研究を実施し、C S II の中間発表会(11 月)最終発表会(2 月)実施。生徒満足度 85% (◎) ③ 「東京キャンパスツアー」実施（8 月）卒業生の教授などの協力を得て質の高く実施。(満足度 100%) (○) ④ 現在新しい取り組みを実施し、作成途中 (○) ⑤ 1 年生全員対象に、今年も「キャリアガイダンス」を実施。生徒の満足度高かった。(○) ・卒業生等による交流会(2 年全員 8 月、3 年全員 4 月・10 月)、進路懇談会 3 回(希望者 4 月 5 月 6 月)、医学部・外国学部進学希望生対象 2 回(6 月)、合宿等 10 回実施。充実した内容で実施した。(◎) ⑥ 大学・研究室訪問回数 東大(満足度 100%)、阪大薬学部連続講義(100%)、SSI 研究室訪問、1 年全員京大見学会を実施(○) ・学校教育自己診断（生徒）「適切な進路指導」肯定的評価 85.4%(◎) ⑦ ・地元総合病院での医療インターンシップ 1 回実施 ・医療系進学 25 名 (○) ⑧ 文系の探究的学習充実 S G H 3 年目大変充実した内容で実施中。ビジネスグランプリにて全国 1 位獲得。2 月最終発表、3 月 S G H 甲子園で優秀賞獲得。(◎) ・海外大学進学 69 期 2 名 (◎) ⑨ 1 年生 TOEFL クラス文理学科 2 クラス普通科 2 クラス 2 年生文理学科 1 クラス普通科 1 クラスにおいて TOEFL 授業を実施。授業満足度 95%(○) ⑩ 1 年生全員 320 名は TOEFL ITPlevel 2 を受験 TOEFLiBT は 1, 2 年で 81 名受験。計 401 名(○) 学校教育自己診断「コミュニケーション英語を学ぶ機会」肯定的評価 73%(◎) ⑪ ・オーストラリア・スタディーツアー 30 名、フィリピン・スタディーツアー 19 名、NASA ツアー 26 名 70 期台湾修学旅行 318 名 台湾大学生交流 成功高級中学、国立師範大学付属高級中学と交流(◎) ・今後 3 月アメリカポートランド 23 名、韓国へのスポーツ交流 19 名実施予定 ⑫ ・海外よりの短期交流受け入れ 韓国 慶山高校より 40 名訪問(7 月)生徒交流 アメリカ在住生徒 1 名、海外留学生との課題研究 交流会 40 名 計 81 名。(○) ・倫理の授業中に留学生による異文化交流を取り入れ、多様な場面でのコミュニケーション英語の実践を実施。学校教育自己診断「国際交流に関する取組みが充実している」の肯定的評価 生徒 81%保護者 85%(○) ・ S S I ・ S G H 合同で 3 年生の最終課題研究発表として、約 40 名の様々な国の留学生に英語で発表を行った。(◎) ・ C S 探究活動でフィリピン料理をフィリピン人の方より学んだり、台湾留学生と事前学習を実施するなど、さらに異文化理解の場を増やした。(◎) ・海外大学進学・留学をめざして「留学セミナー」を初めて実施(5 月、1 月)予想以上の生徒・保護者の参加があり好評。(◎)</p>

<p>2 確かな学力の向上と進路希望の実現</p>	<p>(3) 質の高い授業による確かな学力向上 ア 質の高い授業の提供</p> <p>イ 学力向上の取り組み</p> <p>(4) 進路希望の実現</p>	<p>①SGH・GLHS・SET設置校として文理学科・普通科に適した教科・科目の教材開発、授業方法の研究を進める。</p> <p>②生徒の自学自習（家庭等での学習）時間を2時間以上確保させる。</p> <p>③授業アンケートや研究授業を活用して授業力向上を図る。</p> <p>④1年生及び2年生で勉強合宿を実施して、学力向上と学習意欲の向上を図る。</p> <p>⑤課題研究(CS 探究)をイノベーション人材育成の観点から一層充実させる。</p> <p>⑥基礎的、基本的な学力を高めるために読書量、読書時間の確保を図る。</p> <p>⑦難関国立大学等（東大、京大、阪大、神大、市大、医学部医学科等）への合格者の増加を図る。</p> <p>⑧1、2年生の成績不振者には計画的な「成績不振者講習」を行い、学力の回復と意欲向上を図る一方、発展的専門的な学習「進学講習（三丘スタディーハード）」を行い、学力を養成する。</p> <p>⑨三丘エクセレンスなどを利用して卒業生チューターとの学習・進路相談を充実させ、生徒の進路意識の醸成を図る。</p> <p>⑩生徒自らが適切な進路選択できるとともに、難関大学への志望力を高めるために進路指導体制の強化し、3年間の進路育成プログラムを完成させる。</p>	<p>①SGH・GLHS・SET設置校として、教員対象授業公開年4回以上、保護者への授業公開3回以上を実施する。(H27年度7回)</p> <p>②1、2年生で1日2時間以上の自学自習する生徒の割合50%以上をめざす (H27年度43%)</p> <p>③生徒の授業満足度85%以上を維持 (H27年度87%) 生徒の「三丘スタディーハード」の満足度70%以上をめざす。(H27年度90%)</p> <p>④参加生徒の満足度85%以上を維持 (H27年度100%) 生徒の参加数100名以上をめざす</p> <p>⑤参加生徒の満足度85%以上維持 (H27年度100%)</p> <p>⑥「月下氷人」や「図書だより」を活用するなどして、読書指導を充実 (1、2年次は、学期に5冊以上読書)</p> <p>⑦難関国立大学合格者数を毎年増加させる (H27年度121人)</p> <p>⑧難関国立大学現役合格者数を毎年増加させる (H27年度75人)</p> <p>⑨卒業生チューターとの懇談・相談会の年間5回以上の実施を維持 (H27年度7回)</p> <p>⑩本校の進学指導に対する生徒の満足度80%以上をめざす (H27年度86%)</p>	<p>①公開授業は、他校の教員対象4回、保護者対象3回実施。他校教員対象では、授業後に研究協議も実施し意見交換し授業改善に有意義な機会となった。(○)</p> <p>②家庭学習時間についてアンケート結果(第2回11月)は、昨年度第2回と比較して、2時間以上、1年は、38%⇒41%、2年は48%⇒54% 3年は95%と全学年増加しているが、さらに自学自習の学習時間増をめざしていきたい。(○)</p> <p>③土曜授業を計画的に実施。年間計15回実施した。授業アンケートを2回実施。それに伴い教職員も改善シートによる振り返りを全員実施。授業満足度87%生徒の「三丘スタディーハード」の満足度90%(○)</p> <p>④勉強合宿は7月に1年大阪・2年京都で実施。1年59名、2年17名参加し、生徒の満足度は100%(○)</p> <p>⑤SSI研修(5月)では、3年生が多国籍の留学生40名に向け、英語で課題研究成果を発表。(◎) ・SSH全国生徒発表会(8月)にて3年発表、京都大阪数学コンテスト2年1名、阪大SEEDSプログラムに2年1名1年1名計2名参加 ・理系分野では、大阪学生科学賞最優秀賞、学校賞、京大優秀発表賞など、文系分野では、高校生ビジネスプラングランプリで全国一位等大きな成果あり(◎) ・1、2年生文理学科において全員課題研究を実施し、「CSI課題発表会」2月最終発表会実施。満足度90%</p> <p>⑥国語科が中心となり、特に1、2年生での「読書記録」を提出させて読書指導を行い、月3冊の読書を推進。読書指導は継続して重要課題である。(○)</p> <p>⑦新たに3年担任団および教科担当教諭ほぼ全員で、「進路指導分析会」を実施。(10月)生徒一人ひとりの校内模試結果・センター模試結果と進路希望を分析し、今後の指導について検討した。難関国立大学合格者143名で増加した(◎)</p> <p>⑧成績不振者講習 1年生には1、2学期のべ33回、2年生には43回。授業で躓いていた生徒の指導にもっと力を入れたい。進学講習は三丘スタディーハードとして実施。のべ460回実施で大幅増加。難関国立現役合格者数は100名で増加した。(◎)</p> <p>⑨3年2回、1・2年各1回、医学部1回、外国語1回 計7回実施し、生徒の進路意識の向上を図った。</p> <p>⑩・1、2年のPTA学年連絡会(秋)において、外部講師による進路指導講演会を初めて実施した。本校の進学指導に対する生徒の満足度85%(○)</p>
<p>3 基本的な生活習慣の確立と 自主自立・人権尊重の精神の涵養</p>	<p>(5) 生活習慣の確立と三丘スピリット育成</p> <p>(6) 人権尊重の教育推進</p>	<p>①規範ある集団生活を確立し、遅刻指導の徹底と授業集中力を高める。</p> <p>②部活動や学校行事を通じて「三丘スピリット」を育み、「集中と切替え」ができる生活態度を育成する。</p> <p>③各種の行事や部活動を通じて豊かな人間性とリーダーに必要な資質を養う。</p> <p>④人間関係の構築などの今日的課題をふまえて、リーダーにふさわしい豊かな人間性や資質を涵養する。</p> <p>⑤人権教育推進委員会と学年や分掌が連携し、恒常的な情報交換を行う。</p>	<p>①1日1クラス当たりの遅刻人数0.5人未満 (H27年度0.51人)</p> <p>②1、2年生の部活動加入率95%以上を維持 (H27年度95%)</p> <p>③挨拶運動を年2回以上実施 リーダー研修を年1回以上実施 (H27年度2回実施)</p> <p>④⑤各学年、年1回以上の講演会と人権HRの実施 ・学校教育自己診断(生徒)「人権・環境・福祉に関して学ぶ機会」に関する肯定的評価50%以上をめざす (H27年度52%)</p>	<p>①遅刻は学年末で1日1クラス0.48と昨年より減。学年別では1年生は0.13⇒0.11、2年生は0.66⇒0.28、減少したが、3年生は0.62⇒1.1で3年の3学期に急増。今後の課題である。(○)</p> <p>②・生徒会中心に文化祭において初めて後夜祭を企画実施した。新たなことへの挑戦実行力の育成となっている。(◎) ・部活動加入率95%を維持。陸上部・なぎなた部が全国大会に、陸上部・水泳部・硬式テニス部で近畿大会出場。文武両道の三丘スピリットの継承に力を注ぎたい。(○)</p> <p>③生徒自治会、部活動員による挨拶運動を年2回実施、リーダー研修を5月、12月(予定)の2回実施。(○)今後も全教職員が様々な場面で力を合わせて取り組んでいきたい。</p> <p>④⑤全学年対象に「インターネットと人権」をテーマに人権講演を実施(4月)、3年「国際社会と人権」、2年は「台湾から見た日本、日本から見た台湾」、1年は「多文化共生、異文化理解」をテーマに実施。人権教員研修は、「不登校対応の基礎」をテーマに対人関係の結び方など8月実施。学校教育自己診断(生徒)「人権・環境・福祉に関して学ぶ機会」に関する肯定的評価53.2%(○)</p>

<p style="text-align: center;">4 機動的な学校運営体制の確立と教職員の資質向上</p>	<p>(7) 機動的な学校運営</p> <p>(8) 安全・安心で開かれた学校</p> <p>(9) 教職員の資質向上</p>	<p>①機動的な学校運営のため、学校経営計画の学校の目標や取り組みを共有し、実行し、常に教職員が課題や改善点を意識し、次年度につなげる。評価・育成システムとより一層関連を深める。</p> <p>②校内イントラを一層積極的に活用し、情報の共有を進める。全員がICTを使って業務の省力化を図る。</p> <p>③安全で安心できる学校をつくるため緊急事態発生時の対応や教職員の研修など危機管理体制を確立する。</p> <p>④生徒相談室の機能の充実を図るとともに、特に問題を抱えた生徒について、学年団での情報交換や連携指導を図る。</p> <p>⑤開かれた学校として、保護者や地域との連携を図るとともに、教育活動や学校運営についてWebページを通じて公表していく。</p> <p>⑥文化祭や登録文化財「三丘会館」、芸術祭、各種講演会などを広く府民に積極的に公開する。</p> <p>⑦新着任教員が新しい職場に早期に適応できるように研修を実施し、教職員の資質向上を図る。</p> <p>⑧学力向上のため授業力向上をめざし、校内研究授業を開催するとともに教育産業等の授業研修受講を支援する。</p>	<p>①学校教育自己診断や提言シートなどを活用して、改善を図る</p> <p>②利用についての研修を1回以上実施(H27年度2回)</p> <p>③各学期1回以上の研修を実施(H27年度各学期1回)</p> <p>④「こころのアンケート」の継続実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「支援カード」の活用強化 ・随時、ケース会議を開催 ・随時、学年団での情報交換会を開催 ・相談できる先生がいる70%以上維持(H27年度72%) <p>⑤各学年の保護者連絡会等を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Webページは随時更新し、行事等は10日以内の情報提供を行う <p>⑥地域住民、府民など公開する行事を年間3日以上設定する。(H27年度7日)</p> <p>⑦年間6回程度の研修を実施する(H27年度5回)</p> <p>⑧・校内研究授業 各学期1回実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育産業等の授業研修や他校の研修に年間50人以上参加(H27年度30人) 	<p>①学校教育自己診断アンケート(教職員)も実施。アンケートや提言をふまえて、今後の学校経営に理解を得る努力をしていきたい。(○)</p> <p>②電子黒板などを効果的に授業で活用すべく、教員相互の授業見学週間を10～11月1回実施。(○)</p> <p>③年間2回の全校避難訓練(4,11月)、教職員対象に「エビペン研修」(8月)、「救急救命研修」(12月)、10月防災宿泊訓練を本校生徒、地域学童、教員など計54名参加。本校PTA3名も参加。(◎)</p> <p>④・形式を記述式に変えて実施(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題を抱えた生徒に対しての情報を共有し、統一した指導を行うためにケース会議を随時開催。「教育相談だより」を2か月に1回発行(◎) ・教育相談担当を、保健部に移したことで、各学年と養護教諭・教育相談担当・SCとの情報交換が円滑に進むようになった。引き続き組織的対応を維持・強化していきたい。学校教育自己診断にて、「相談できる先生がいる」71%(◎) <p>⑤・1,2年は2回、3年は1回開催。視聴覚教室があふれるほどの参加があった。今後も保護者への情報提供の場として実施していきたい。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行事ごとに速やかに情報提供した。(○) <p>⑥・中学生・保護者対象の学校説明会を4回、塾対象説明会1回(7月)実施。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化祭2日(約4000人來場)、体育祭1日、芸術祭4日など7日実施。(◎) ・サッカー部創部100周年記念(11月6日)、三丘体育会創立40周年記念祝賀会(1月29日)記念事業実施 <p>⑦若手教員の勉強会「三究会」において、校内勉強会を進路・国際交流・救急・防災などの分野で6回実施(○)</p> <p>⑧・校内での相互の授業見学を推進すべく、授業見学期間を10～11月に実施。各教員3回以上見学を実施(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内研究授業を1学期1回3名、2学期2回6名、3学期1回2名実施(○) ・教育産業や他校等が実施する教科研修や入試問題研究研修等に30名が参加。(△) <p>・他府県の先進的取組校を訪問し、教科指導・進路指導・課題研究指導を研修(東京都立日比谷高校、愛知県立刈谷高校、時習館高校)し、その成果を職員会で発表。→新たに「進路指導分析会」を実施(◎)</p>
---	---	--	---	---